

## 山川地域住民説明会質疑等の概要【山川小学校区】

○日時：平成31年3月6日（水） 19:00～20:30

○場所：山川文化ホール ○参加者：54人

**参加者）**4校が1校になると、どの位経費が削減されると試算しているのか。人件費が大きいと思うが。

**事務局）**現在4校に40人の教職員がいるが、1校になった場合22人位になるので、人件費は約半分になるのではないかと想定している。ただし、教職員は県が給与を支払っているのです、市の経費削減とはならない。市で雇用している図書館事務職員や学校事務補助員等の人件費は削減されると思う。

施設的な面では、修繕等の予算は削減できるが、学校跡地は、地域の方に喜んで使ってもらえるような活用を検討しているので、もし、市が所有したまま活用となった場合は、施設の修繕等の予算削減は期待できないと考えている。

学校を運営するに当たって必要な光熱水費や事務用品等については、跡地をどのように活用していくのか見えない部分があるので、どれだけ削減できるかは言えないところである。

**参加者）**集約の方式である「新設集約」と「編入集約」の具体的な違いは何か。

**事務局）**「新設集約」は、4校とも廃止し、場所はいずれかの学校を使うが、新しい学校を1校つくるものである。それぞれの学校の歴史は全てゼロにして、1から歴史が始まる場所である。

「編入集約」は、いずれかの学校に集め、学校名も変わらず、その学校の歴史を受け継いでいくという考え方である。

教育委員会では、山川地域と一緒に、1からスタートした方がいいのではないかという思いで、現段階では「新設集約」という形で協議している。学校名については、協議中である。

**参加者）**「新設集約」と「編入集約」では、新設集約の方が、メリットが大きいということか。

**事務局）**メリット、デメリットを考えると、いろいろな考え方がある。1つは気持ち的な部分があると思う。「山川地域の小学校と一緒に新しく一歩踏み出す」ということは、新設集約の大きなメリットではないかと思っている。

編入集約は、3校を廃止するだけなので、事務的な面ではメリットがある。

**参加者）**学校の位置を現在の大成小学校とした理由は何か。

**事務局）**学校の位置を決めるに当たって、6つの要件を事務局で提案した。

1点目の「校舎や体育館の耐震性があるのか」については、どこの学校も問題はない。

2点目の「児童を収容するだけの広さ、教室数があるか」については、山川小と大成小でないとい現在の校舎では入らない。新しく校舎やプレハブを建てる方法はあると思うが、事務局では今ある校舎で集約を行いたいと考えている。

3点目の「災害時における危険箇所指定がどうか」については、市のハザードマップで確認したところ、山川小学校の東側の土手部分が急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている。

4点目の「通学時の安全性があるか」については、子どもたちがバスに乗って移動するので、極力通学時間が短い方が望ましいのではないかと思っている。

5点目の「近隣の施設との関わりはどうか」については、特に、近隣の文教施設について考え、山

川図書館，勤労者体育センター，大成運動場などが近いこと，また小中の連携はすごく大事なので山川中学校との関係を考えて。

6点目の「地理的条件はどうか」については，山川全体を見た時に中心地が望ましいのではないかとこの部分である。

これらの要件を踏まえて，教育委員会は，大成小が望ましいと考えてところである。このことについては，調整会議に事務局案として提示し，小学校区ごとの会議でいろいろ意見をいただきながら，現時点では大成小に集約する方向で協議しているところである。

**参加者）**放課後児童クラブは地域福祉課で進めているが，山川小校区の子どもクラブは，国や県の補助金をもらっていないので融通がきく。だから大成小の子どもも預かっている。国の補助金等をもったら，㎡当たり何名という基準があるので，その人数しか預かれない。そうすると，高学年の子どもを預かれなくなる。再編した場合，人数が増えるが，高学年も預かってもらわないと困るという保護者がいるかもしれない。こういうことも地域福祉課が保護者に聞き取りをしながら進めていくのか。

**事務局）**今後、市役所内で協議をする場を持つ。「保護者の意見を聞きながら進めてほしい」というのは、担当課に伝える。子どもたちのことを考えながら、「どういう放課後児童クラブにすべきか」ということは、すごく大事だと思う。大成校区での説明会で放課後児童クラブについての意見が多く出た。夏休みに預かれない所があるとか、放課後児童クラブごとに金額が違ふとかいう意見もあった。放課後のあり方については、厚生労働省が進めている「放課後児童クラブ」と文部科学省が進めている「放課後子供教室」がある。これを合わせて、「放課後子ども総合プラン」という大きな流れの動きもある。このような流れもみながら協議をしていきたい。ちょうど今回の学校集約が，教育委員会と市長部局の垣根を越えて一緒に協議をしながら，子どもたちにとって望ましい放課後のあり方の協議ができるいい機会なのではないかと考えている。

**参加者）**既存校舎の教室で全児童を収容することができるということだが，大成小は昭和36年に建築され，57年が経過している。施設の改築や増築などは検討されているのか。

**事務局）**施設の改修等については，建築課と協議しながら進めることになるが，今回，複式学級が増えている現状を踏まえ，できるだけ早く学校の集約を行いたいという思いで進めている。

もう1点，現在，施設一体型小中一貫校の新設についても研究をしている。小中一貫教育では，小学校と中学校が連携して教育を行うが，小学校と中学校が連携するにはやはり同じ建物のほうが連携しやすいので，新しい学校の新設についても研究をしているところである。

このようなことから，今回の集約に当たっては，大規模な工事は行わない方向で考えている。ただ，子どもたちが教育を受ける場であるので，最低限の工事は行い，きれいになった学校で授業を受けてほしいと思っている。確かに校舎は古いが，これまで学校からの要望に応じて改修を行っており，また，耐震強度などについてはすべて問題はない。

**参加者）**スクールバスの帰りの時間はどうなるのか。放課後学校に残ってスポーツをする子どももいると思うが，そういう対応はできるのか。

**事務局）**スクールバスについては，現時点では山川小が70人位いるので，大型バス2台が必要だと考えている。どこで乗るのかについては，学校と話をしながら，複数か所に集まってもらうのか，1か所に集まってもらうのかも考えないといけない。先進地では何か所かバス停を設けて拾って行く所もあ

る。学校とも協議をしながら、どういう形が望ましいのか協議をしたい。

帰りの便については、低学年と高学年で終わる時間が違う。先日、加世田小を視察したが、15時過ぎに低学年の子が3人バスに乗って帰っていた。それでもその時間帯に帰る子がいるので、バスを運行している。低学年の子どもが、例えば山川文化ホールで降りたら、そこから歩くのは不安だという話も聞いている。そうであれば、その間図書室などで宿題等をして、高学年の子どもと一緒に帰るといった方法もあるのではないかと思う。こういうことも今後協議しながら、最終的には学校の判断になるのかなと思う。

スポーツ少年団については、学校教育の面だけで考えると、乗せられないと思うが、その子たちをどうやって帰すのかということも、協議の延長にはあると思う。スクールバスについては、中学生を乗せたらどうかという意見や、逆に小学生だけがいいという意見もある。今後、意見を伺いながら協議していきたい。文部科学省の通学に対する補助金の規定は、中学生は小学生とは異なる。しかし、中学生まで乗せた方がいいという意見があれば、市の負担が増える場合があっても、協議をする必要はあると思う。今は意見をもらっている段階で、どこまでが国の基準の中でできて、どこからが市独自でしないといけないのか研究しながら協議していく。バスの運行形態については、学校とも一緒に協議して、最終的には学校の判断になると思うが、こんな意見があると提案する必要があると思う。

ある学校では、5校が1校に集約され、4つの学校からそれぞれ1台のスクールバスで来ていたが、少年団は16時、17時以降に活動するので、その子どもたちは、帰りのバスには乗らず、図書室で宿題などの勉強をしてから少年団活動をして、19時頃に保護者が迎えに来るといったような形であった。

**参加者)** 指宿地域でも1年生が長距離を通学しているが、山川地域で集約先が大成小となった場合、何kmまでは歩いて、それ以上はバスでという基準があるのか。

**事務局)** 文部科学省では、中学生が6km、小学生が4kmとしている。しかし、そこで線を引くと利永も真ん中位までが4km以内になる。そこで区切っていいのかどうかである。これからの協議となるが、現時点では旧小学校区があるので、そこで線引きをしたほうが分かりやすいし、理解も得られやすいのではないかと考えている。現在の大成小でも遠い子どもがいると思うので、そういう子どもをどうするのかということについても協議していきたい。いずれにしても、「この子どもは乗せて、向かい側の子どもは乗せないのか」という問題が付きまってくると思う。協議してしっかり線を引かないといけないと考えている。

**参加者)** スクールバスの費用は、保護者負担でなく、市が負担してくれるのか。

**事務局)** 約束はできないが、当然市の負担になると考えている。他の町で、スクールバスの費用を徴収している所は聞いたことはない。義務教育なので、基本的に保護者負担はないと思っている。

**参加者)** 児童数が50人、60人いると、どんなバスになるのかと聞いていたら、大型バス2台ということでした。利永は1台でもいいかもしれないが、山川、徳光は2台運行となるのか。スポーツ少年団をしている子どもは、保護者が迎えに行くというようなことだが、保護者に負担をかけないような運行はできないのか。

大成小校区も範囲が広い。今は徒歩だが、どのような検討がされていくのか。

**事務局)** 山川小学校区が70名位いるので、おそらく大型バスが2台という話をしたが、まだ協議中である。例えば、2台のバスが山川から同時に出るのか、1台の大型バスが2往復するのか、考え方はい

ろいろあると思う。現時点で何か決まっているわけではないが、無駄な運行をする必要はないし、効率的というのは大事だと思っている。教育委員会だけではなく、保護者の方も交えて協議しながら納得いただけるようなスクールバスを走らせたいと思っている。

中学校は学校教育の一環で部活動をしているが、スポーツ少年団は学校教育の一環ではない。ただ、子どもたちが関係する団体の活動であるので、何らかの方法がないか協議していきたい。他の町で、スポーツ少年団の活動が終わるまで待ってバスを走らせているというのは、今のところ聞いていない。スポーツ少年団はやりたい子だけがやっているの、その費用を市が負担するのはどうなのかという部分はあるかもしれない。

大成小も範囲が広いということだが、そのことについても協議して、線引きをしっかりとしないといけないと思っている。

調整会議では、「朝は1便で、同じ時間帯で2台走らせる方法」「帰りについては、低学年と高学年の時間帯が違うので分けたほうがいい」といった意見が出ている。運行形態については、今後様々な案を示して、これから協議していかないといけない。それぞれの校区を同じバスで行くのか。それとも、児童数が少ない所は、別な学校を経由していくのか。直営か、委託かなど、いろいろな考え方があると思う。

**参加者)** 2021年4月1日を目途に集約を目指すということだが、調整項目の協議はいつまでするのか。

**事務局)** 調整項目については、来年度中にできるだけ済ませたいと思っている。ただし、学校の教育課程については、少し時間がかかる。また、PTAの組織、規約、会則等を定めるに当たっては、各学校の代表の方に集まっていただき協議してもらうが、時間がかかると思うので、ぎりぎりまで協議するかもしれないが、できるだけ2019年度中には、ある程度は協議を済ませておきたい。予算を伴うものや準備しないとけないものもあるので、その辺は早めに対応したいと考えている。

急ぐ理由の一つに、式典関係がある。集約について議会で正式に決定したら、各学校の閉校行事をPTAや同窓生の方が集まって計画していくことになると思うので、その辺は早めに対応しないとけないと考えている。

**参加者)** 大成小の敷地内に消防車両が進入できないという話を聞いた。また、近くに消火するための水利が全くない。普通、学校はプールが水利になっているが、大成小だけプールに入れにくいらしい。

学校は二次避難所である。もし震災が起こったら、子どもは徒歩で帰れる距離ではないので、家に帰れない。そういう場合の備蓄はあるのか。そこでライフラインが復旧するまで避難できるのか。

**事務局)** 消防車が入らないという話を聞いたことがあるので、どうにか正門を改修できないかと考えている。まだ、設計をしていないので約束はできないが、改修したいと思っている。消火栓は、校庭に2か所あり、ホースを繋げば水は出るようになっている。

災害時に避難した時の場合は、私たちも気が付いていない部分であった。バスが走れないとなれば確かに帰れない可能性はある。備蓄については危機管理課等と協議をしたいと思う。

**参加者)** 集約した場合、複式学級が解消されるのは素晴らしいことだと思う。集約した時の各学年のクラス数、児童数の見通しを教えてほしい。

**事務局)** 今いる未就学児及び児童の人数の推移から想定すると、平成33年度時点で集約した学校では、全学年2学級規模で、6年生が71人で1学級35人程度、5年生が59人で1学級が30人程度、4年生が

58人で1学級が29人程度、3年生が64人で1学級が32人程度、2年生が55人で1学級が27人程度、1年生が46人で1学級が23人程度と想定している。新しい学校ができて、魅力ある教育ができれば、それに魅力を感じて増えてくるかも知れないし、また何らかの事情で転出する人もいると思うので、現時点の想定ということで理解してほしい。

なお、現在、柳田小が385名なので、山川地域が集約すると同じ位の規模になる。単純に学級担任だけを考えると6クラスあれば6人になるが、1学年に2学級ずつあると、教職員は22名配置される。これには、校長、教頭、養護教諭も入っているが、学級数より10名多く教職員が配置されると担任以外の先生が配置されることになるので、音楽専科や理科専科の他に少人数指導の先生や算数だけ、英語だけを教える専科の先生を配置することもできる。専科の先生が授業をしている時は、担任に空き時間ができるので、日記やテストを調べたり、子どもたちに寄り添う時間をつくることができる。そういうことで、市では、ある程度の規模が望ましいと考えているところである。

この望ましい学校づくりの協議については、山川地域だけでなく、開聞地域、指宿地域でも調整会議を立ち上げて協議をしている。ただ、集約については、山川地域が他の地域よりも進んでいる。

開聞地域では、調整会議は2回しかできていない。いろいろ地域の方の意見を聞きながら作業を進めている。

指宿地域では、現在具体的な方向性が決まっていないので、今後どのような形に進めていったらいいのか協議しているところである。

山川地域は4校を既存校1校に集約するという形で協議を進めている。山川地域の取組は、今後、注目を浴び、指宿地域、開聞地域のモデル的なものになっていくのではないかなと考えている。このことから、教育委員会では、集約してよかったというような学校にしていけないと考えている。子どもたちが安全、安心な学校生活を送ってもらうためには、ハード面もきちんと対応しなければならない。また、素晴らしい教育を受けてもらうためにも、ソフト面もきちんと環境を整える。今、パソコン等の教育にも取り組んでいるが、そういったソフト面の充実も何かできないかということも今後検討していくこととしている。

以上